

令和4年度学校評価を受けて

令和5年2月 山形県立山形豊学校

【はじめに】

保護者の皆様、お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。今年度の結果を次のとおり報告します。（項目ごとの点数など詳細は別紙のとおりです。）

1 学校評価アンケートについて

- (1) 実施時期 令和5年1月
- (2) 回答者 児童生徒（小学部以上30名） 保護者 34名（うち寄宿舍保護者7名）
教員 42名 寄宿舍指導員 11名
- (3) 採点方法と評価基準
 - ・ 各項目について「そう思う」は＋2点、「おおよそそう思う」は＋1点、「あまりそう思わない」は－1点、「そう思わない」は－2点とし、平均点を求め、年度ごとの比較をしました。
 - ・ 各項目の達成度を評価するため、「そう思う（＋2点）」と「おおよそそう思う（＋1点）」の合計が8割以上をA、6～7割をB、4～5割をC、3割以下をDとしました。

2 アンケート結果について

(1) 学校関係者評価

① 児童生徒

コロナ禍で心の安定と成長を支えられるよう、教職員への相談のしやすさについて「項目10」を新設したところ、93%の児童生徒が「そう思う・おおよそそう思う」と回答しました。学習について、新しいことを学んだりできることが増えた（項目1）では全員が「そう思う・おおよそそう思う」と回答し、学習したことを実感していることが分かりました。一方、復習や宿題への取り組み（項目2）、自分から調べたり聞いたりすること（項目3）については、前年度より平均点が下がっており、自主的・主体的な学習態度を育む指導、復習や宿題でのICT活用について努めていきます。

② 保護者

たよりなどを通して学校や子供の情報を伝えること（項目2）、生活の規律に関する指導（項目6）、子どもが生き生きと活動する学校行事（項目9）について、前年度より平均点が上がりました。子どもたちの様子を直接参観していただくことやたよりや口頭での説明によって指導の意図や成長などを伝えることができるよう努めていきます。また、寄宿舍での生活指導について高い評価をしていただきました。一方、障がい配慮した指導（項目4）や読書活動（項目5）については、前年度より平均点が下がりました。子どもたちの聞こえや言葉の発達など一人一人に応じた指導の工夫がなされるよう研究・研修の内容を充実させていきます。

(2) 教職員による自己評価

キャリア発達を視野にいれた生活面の指導を充実するよう項目3を新設しました。たよりなどを通してお伝えすること（項目9）や学校行事（項目10）については、保護者の結果と同様の傾向が見られました。一方、読書活動の充実については平均が1点を下回っており、発達段階に応じた読書活動や関連した指導を充実するよう努めていきます。

【おわりに】

いただいた評価を踏まえ、教育目標「豊かな言葉と自立の力を育む」を達成するよう、皆様に信頼され子どもたちのもてる力を最大限伸ばす学校づくりに努めてまいります。様々なご協力をお願いいたします。